

「こころのボランティア」

熊本県 人吉市立人吉西小学校 5年 ^{あじおか} 味岡 ^{しほ} 詩歩

「土砂災害」について考えることで、すぐに思いついたのは九州北部豪雨災害です。今年の七月初めに起こった大雨による土砂災害です。

私の父の友人が朝倉市に住んでいてご家族が被災しました。被災の大きかった東峰村がその方のご実家でした。松末地区に住んでいた父の友人の親戚の方は家や車、そのすべてがものすごい土石流で流されました。その方の奥さんは行方不明となられ、まだ発見されていません。父の友人の友達のお父さんは亡くなられました。とても悲しいお知らせでした。

父は、大雨が落ち着いた数日後、私と兄を連れてたくさん支援物資を積んだ自家用車で朝倉市に連れて行ってくれました。

被災地に近づくと、高速道路から泥に埋まった田畑と多くの流木が見えました。日田インター出口の道路の両脇には土砂が高く積まれ、ひっくり返っていた車がありました。道路は多くの車でごった返しして土ぼこりがすごく、マスクが必要だな思いました。父が向かったのは、避難所となっていた朝倉市の杷木中学校体育館でした。そこには、多くの方が避難されていました。父の友人の母親もその体育館に避難しておられました。体育館には 200 人をこえる方々がいらっしゃいました。体育館入り口の所には、熊本の陸上自衛隊の皆さんの姿を見て、少し嬉しくなりました。

私は、去年の熊本地震で父と一緒にたくさん支援活動を手伝いました。

私の祖父、祖母、親戚や両親のお友達がたくさん被災しました。家が潰れた方もいました。たくさんの方が避難されている体育館や熊本空港そばにある避難所のエミナースで支援活動しました。その時の避難所と同じ光景が杷木中学校にありました。

私は、車に積まれたたくさん支援物資を体育館に運び込みました。そこで物資ごとに仕分けをしました。仕分けした物資をそれぞれの場所に運びました。

物資の運び込みが終わって、父の友人と合流することが出来ました。父の友人の山口さんが、被災の一番大きかった所に親戚がいるので連れて行ってあげるとのことでしたので、一緒に向かいました。山口さんのお母さんは、避難所であった松末小学校が危ないということで杷木中学校に避難されたそうで、避難されてすぐ松末小学校のある松末地区に土砂と多くの流木が流れ込んできたそうです。

松末地区に向かう道路は通行止めとなっていて、山間からは何箇所も水が流れ込んでいました。土砂が屋根の高さまで埋まっている家がいくつもありました。もちろん自動車も埋まっていました。たくさん流木で歩いて行くのが大変でした。避難所で見た多くの方が長靴を履いていた理由がわかりました。松末小学校のそばに流れる川には 15 メートルくらいの高さで流木が何本も積み重なっていました。見た事のない光景で、自然の強さと恐ろしさを感じました。

父が山肌をよく見てごらんと言いました。木がなくなって地面が見えていました。流れ込んでいた土砂を見たら小学校のグラウンドの土と同じでした。山の表面にグラウンドと同じ水はけの良い土があって、その表面にある土が木々と共に一気に流れたんだよと教えてくれました。

車に戻る途中、泥まみれになった広島県警の方々と自衛隊の方々、ボランティアの方と出会いました。ご苦労様でしたと言いました。自然にありがとうございましたの言葉も出ました。

父は、山を育てることも大事だと教えてくれました。

流れ込んでいた流木のほとんどが杉の木でした。木は杉だけじゃなく、竹も樫もヒノキもなんでも大切なんだ。木々の根が深く這うことで大地を守り、災害から守ると言いました。土砂災害を防ぐことの一つだと思いました。

どんな災害でも、災害はない方がいいです。でも、できる防災は心がけた方がいいと思いました。何かあった時に慌てないように避難訓練も大事だなと思うようになりました。今後も私が手伝えるボランティアにも頑張りたいと思います。